

おたふくかぜに注意

子どもの時にかかる病気として、麻しん、風しん、水ぼうそうは、よく知られています。これらの病気は、予防接種が無料で受けられるので、めったに見なくなりました。

おたふくかぜも、主に子どもの時にかかる病気です。おたふくかぜにかかると、熱が出て耳の下の耳下腺が腫れます。外国では予防接種の普及で、おたふくかぜは、まれな病気となりました。日本では予防接種を受ける人が多くないために、数年おきに流行して、ここ2年間は大きな流行となっています。

ほとんどは1週間程度で治りますが、時に髄膜炎や脳炎になったり、不妊の原因になったりすることがあります。大人もかかることがあり、特に子育て世代では、子どもからうつることがあります。大人では、めまいが起こるなど、重症になりやすい傾向があります。

あまり知られていない重要な後遺症に難聴があります。おたふくかぜにかかった人の約1,000人に一人にみられます。多くの場合、片方の難聴が起こり、治らないことがほとんどです。まれに両方の耳が聞こえなくなることがあります。

日本耳鼻咽喉科学会が9月に発表した全国調査では、ここ2年間に300人以上の人が、おたふくかぜが原因で難聴となり、うち16人は両方の耳が聞こえなくなったという結果でした。おたふくかぜは予防接種で予防できる病気であり、難聴も予防できます。定期接種ではありませんので費用が掛かりますが、検討に値する予防接種です。

平成29年12月

西垣 正憲